

科目名	基礎デザイン実習B							年度	2025
英語科目名	Basic Design Practice B							学期	前期
学科・学年	デザイン科 イラストレーション専攻 1年次	必/選	必	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	鶴田 勇一		教員の実務経験	有	実務経験の職種	グラフィックデザイナー			
【科目の目的】 長い時間をかけて、先人たちの手でデザインされ、洗練を重ねてきた書体を、レタリングすることで視認性やバランス、フォルムの美しさを追体験し自身の知識としていきます。									
【科目の概要】 レタリングをとおして、文字の形への理解を深めていきます。様々な書体(フォント)に触れることで美的な感覚を養います。なかなかうまく描けないこともあります。まずは描かないとアドバイスが受けられないので積極的に課題制作に取り組みましょう。									
【到達目標】 A. 複数の書体のいくつかの文字を描いて特徴を理解する B. 錯視や濃度を理解して文字のバランスを整えられる C. 書体のバランスを考えて文字をデザインする									
【授業の注意点】 課題制作した自身の作品は、丁寧に保管し大切に扱うこと。使用する道具と教室はきちんと管理をして常に手入れを怠らないこと。持参する道具を忘れないこと。貸し出しはしません。課題の提出期限は守ること。授業時数の4分の3以上出席しない者は課題提出と評価を受けることができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう					レベル1 要努力	
到達目標 A	書体の特徴を細部までとらえて描けている		書体の特徴をおおむねとらえて描けている					書体の特徴が表現できていない	
到達目標 B									
到達目標 C	錯視や濃度を理解して細部まで文字のバランスを整えられる		錯視や濃度を理解しておおむね文字のバランスを整えられる					錯視や濃度を理解して文字のバランスを整えられていない	
到達目標 D									
到達目標 E	書体のバランスを考えて細部まで文字をデザインできている		書体のバランスを考えておおむね文字をデザインできている					書体のバランスを考えて文字をデザインできていない	
【教科書】 特になし									
【参考資料】 毎回授業にて資料配布を行う 筆記具・画材・定規など制作に必要な道具は各自持参									
【成績の評価方法・評価基準】 提出された課題で評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		基礎デザイン実習B			年度	2025
英語表記		Basic Design Practice B			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	和文の基礎知識	書体の理解	書体	書体（フォント）について理解する		
			まずは描く	各自がゴシック体と思う書体で描く		
2	和文	ゴシック体をレタリングする	錯視	文字のバランスについて理解する		
			漢字	ゴシック体の漢字をレタリングする		
3	和文	ゴシック体をレタリングする	文字の構造	文字の構造について理解する		
			ひらがな	ゴシック体のひらがなをレタリングする		
4	和文	明朝体をレタリングする	形の比較	形の特徴による分類		
			漢字	明朝体の漢字をレタリングする		
5	和文	明朝体をレタリングする	文字組み	本文組みについて理解する		
			ひらがな	明朝体のひらがなをレタリングする		
6	和文	明朝体をレタリングする	明朝体の特徴	明朝体の形の持つ特徴について理解する		
			漢字・ひらがな	明朝体の漢字とひらがなをレタリングする		
7	欧文	サンセリフ体をレタリングする	文字の構造	欧文の構造について理解する		
			サンセリフ体	Gill Sans / Helvetica をレタリングする		
8	欧文	サンセリフ体をレタリングする	欧文書体の特徴	代表的な欧文書体の名称と歴史、特徴を理解する		
			サンセリフ体	Futura / Optima をレタリングする		
9	欧文	セリフ体をレタリングする	ブランドロゴ	ブランドロゴに使われている書体を知る		
			セリフ体	Bodoni / Didot をレタリングする		
10	欧文	セリフ体をレタリングする	欧文の構成要素	大文字、小文字 他文字組に必要な要素を理解する		
			セリフ体	Baskervill / Caslon をレタリングする		
11	ひらがなをデザインする	デザイン案 ラフスケッチ	ひらがなをデザインしレタリングする	ひらがなのデザインを考えて書体としてバランスを調整し50音すべてを描いてみる		
12		ラフスケッチ書体制作				
13		書体制作				
14		書体制作				
15		完成				

評価方法：1. 提出課題、2. パフォーマンス評価
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等